

# 科学技術の潮流

JST 研究開発戦略センター

118

## 世界最先端

ドイツのマックス・プランク協会は1948年に設立され、昨年までに20人のノーベル賞受賞者を輩出する卓越した基礎研究の成果を生み続けている機関である。さまざまな分野の86の研究所に約2万1000人の職員がいる(2020年現在)。研究者は約1万4000人で、うち外国人は47%で極めて国際化が進んでいる。前身組織であるカイ

ザー・ヴィルヘルム協会(1911年設立)の初代会長アドルフ・ハルナックが定めた、所長となる研究者のために研究所を設立し、去るときに研究所を閉

鎖するというハルナックの原則の理念は今も続いている。現在では複数所長体制のため研究数自体が閉鎖される例はないが、所長が率いる部門は定年に際し一度解散する。当該部門の科学的価値を判断し、部門の改廃や新規設置で、世界最先端かつユニークな研究を実施す

## 産業界と連携

鎖するということの質を保持している。ナチスに協力して国策を推進するマックス・プランク協会は産業との距離が遠く、所長が率いる部門は定年に際し一度解散する。当該部門の科学的価値を判断し、部門の改廃や新規設置で、世界最先端かつユニークな研究を実施す

# 独、基礎研究でイノベ創出



科学技術振興機構(JST) 研究開発戦略センターフェロー/ユニットリーダー(海外動向ユニット) 澤田 朋子

00年ミュンヘン大学政治学部大学院修了(国際政治学専攻)。帰国後はIT系ベンチャー企業でウェブマーケティング事業の立ち上げに参加。13年より現職。



マックス・プランク協会本部(ミュンヘン)

年頃から行っている。と、工学に強いシバレーはマックス・プランク協会、同州、ドイツ・ヴュルテンベルク州と合同で人工知能(AI)拠点サイバー学・哲学で知られるチュービンゲン大学と機械学習などの研究で連携している。サイバ

規模な資金が投じられている。従来、マックス・プランク協会は積極的に産業界と連携をしてきたわけではないが、高いレベルの基礎研究成果を基に破壊的・急進的なイノベーションを起そうとしており、AIのような戦略的分野における連携は日本の産業界にとっても大いに参考となるだろう。(金曜日に掲載)